

麻生多摩美の森だより

麻生区市民健康の森 一 麻生鳥のさえずり公園

第50号 2019年5月31日発行 発行：麻生多摩美の森の会

発行責任者：井上 正樹

編集者：間野 洋

会長就任御挨拶

会長就任に当たり一言ご挨拶申し上げます。

先ず8年間に亘って、会長の要職を無事満遍なく務められたことに感謝致します。本当にご苦労様でした。振り返ってみますと一番印象に残るのは、10年史の発行です。10年史の構想を立て、緻密な計画のもとに物事を勧めていた姿には感服致しました。又、植樹祭・収穫祭の企画・運営に関しましても、元広報の木村さんとの二人三脚で難関を乗り越え、盛大に開催できたことを思い出します。勿論会員の方々、近隣の奥様方の料理作り等の協力が有ったからこそあのよう盛大に出来たと思います。

又、イベントを盛り上げるトラストの会主催の森の展覧会やマリンバや地元こどもたちの和太鼓やアルプホルン等の音色が多摩美の森の木々にこだまし、何とも言えない雰囲気醸し出していました。

又、西生田小学校の森の観察会には児童の生き生きした声が響き渡り、大人をうならせるような感想文も目にし、これからもこの森を維持し、また児童が大きくなった時に、いい思い出が残るように、これからも頑張っていくと思います。

又、麻生プレーパークの児童たちが多摩美の森で自然に溶け込んだ活動をしています。

会長 井上 正樹

さて、会長就任に当たり危惧していることを3点述べます。

1. 地元に精通した会長・副会長がいなくなる。

対策1: 勝田佳代子さんに副会長をお願いし、7町会の連絡係を担当
対策2: 私は千代ヶ丘9丁目に在住しているの、事ある毎にお互いの顔を向き合い、意思疎通をきめ細かにし、結束・交流を密にする。

『地元に密着しない組織は滅びます』

2. 次期会長候補を模索する

(対策) 会長に就任して間もない時に何をというかもしれませんが、会長の一番重要項目と認識しています。地元の中からヘッドハンティングする

3. 会員の老齢化・新規会員ゼロ

(対策) 前会長からは地元の協力は難しいと聞いているが、全く新しい手法で新規会員確保に勢力を尽くします。女性の方が活動しやすいように運営方法も女子力を活用する。最後に私が一番力を入れるのは

1. 植樹祭・収穫祭の復活

基本的にはやれる範囲・方法で復活することが重要である。新規会員の確保、会員の高齢者対策の為に、何としてでも復活します。トラストの会での森の展覧会とも共催の形で11月19日(日)を予定しています。詳細はこれから煮詰めていきますが、期待してください。

会長退任にあたって 間野 洋

ボランティア活動を含め、物事を進めるに当って「楕円の理論(効果)」と言うものがある。楕円形のように二つの中心があって、その二つの核が均衡を保ちつつ緊張した関係にある場合、その団体は立派なものと言える。また、楕円は複数個あっても良く一個一個個別に対応すれば良い。

この楕円の理論を「市民健康の森」に当てはめてみると、市民健康の森には三つの基本理念があり、加えて会員の健康の森に対する意識の向上が必要であり、少なくとも四つの核があると言える。(二つの楕円となる。)設立前の準備段階では、各区が持つ核は、四つ以上あったと推定されます。

これを当会の会長選出問題に当てはめると、初代会長については、「市民健康の森検討委員会」時代より、すべての条件が整っており、会員全てが異存なく会長選出を決定出来たと思われ、準備期間を含め10年以上の運営が出来たと考えます。

2・3代目については、色々問題もあり、選出にも時間がかかりました。この原因は、会員数の半減と会員の意識の問題が大半を占めていると考えられます。

今後の問題については、新役員が決定されると思いますが、是非この「楕円の理論」を参考にされて、会長に過度の負担をかけずに会員全員でバックアップ出来る体制を作って戴きたいと思えます。

勝手なことを述べましたが、会長退任に当り8年間も微力な小生にご指導、ご支援を戴いた行政関係先、近隣の多摩美7町会の皆様にご改めて御礼を申し上げ、加えて会員の皆様のご協力に感謝いたします。

今後とも新体制の下で、広報担当幹事としてだけでなく、当会の運営には出来る限りの事をさせて戴く所存です。

副会長就任にあたって 副会長 勝田佳代子

私は「麻生区市民健康の森」の立ち上げの段階からかかわってきましたが、この数年は他の活動に忙しく、時々活動に参加する程度でした。

この度、地元町会との連絡係として副会長の役をお引き受けすることになりましたが、この緑地が多くの方々に親しまれる地域の憩いの場所として次世代に引き継いでいくことが出来るよう微力ながら力を尽くしたいと思えます。

ヤマユリの生育状況について 間野 洋

2012年7月1日麻生区政30周年式典が行われ、麻生区の花としてヤマユリが指定されました。当会はヤマユリの植栽は既に始めていましたが、2014年より本格的にヤマユリを増やす計画を立てました。この年は「麻生ヤマユリ植栽普及会」の援助を受け、球根10個を旧来のヤマユリ園(A地区)に植栽した。また後日購入した球根15個を、遊歩道沿いの東斜面下(B地区)に植栽した。

2015年は10個購入。5個をB地区に植栽、5個を下の畑の斜面(C地区)に植栽した。

2016年は球根20個を購入し、全てをB地区に植栽した。

今年度の生育状況を見ると、A地区は4株、B地区は28株、C地区は4株、計36株生育していた。A地区は当初よりヤマユリの生育には適していないと考えていたが、(20球以上は植栽した筈である。)今後抜本的な対策が必要になる。B地区は生育率70%程度、C地区は80%であり、今年度も20球程購入して増やして行く予定ですが、今後はB・C地区での植栽が中心となりそうです。

2014年に「植栽普及会」より同時にヤマユリの種を戴き、小生宅で播種し栽培して3目を迎え、これも今後活用出来そうです。

西生田小3年生 冬の観察会と
里山フォーラムの報告
副会長 中谷 一郎

● 冬の森の観察会

平成29年2月6日(月)、全4クラス、137名と先生、会員9名で実施されました。まず、自然観察指導員 高橋英さんが、葉がある木と葉が落ちてない樹木がある事を説明しました。

草本(やまゆりの球根等)、樹木(シラカシ、コナラ、クヌギ)3種類に草本2ヶ所、樹木2ヶ所に各々指導員が付き説明、児童は4クラスに分かれて巡回。1年生草本は種で命をつなぐ(ツユクサ、エノコログサ等)、2年生草本は前年の秋に芽を出し小さな姿で冬を越す(オオイヌフグリ、ハコベ、ナズナ等)、多年生草本は一見地上に出ている部分は枯れている様に見えますが、土の中で茎や根は生きており春に新しい芽を出す(やまゆり等)、地面にロゼッタ状に張付いた(オオバコ、タンポポ、ハルジオン等)も観察しました。藤棚テーブルには写真や実物を置き、そこでも熱心に質問していました。

● 里山フォーラム in 麻生の報告

2017年2月25日(土)に麻生市民館で開催された。今年から各団体からなる委員会を発足させ新しい発想を盛り込んだフォーラムで約220名の参加となりました。午前の子供達の発表。「私達が地域の自然で学んだこと」をテーマに、金程小、岡上小、西生田小、東柿生小、各校とも素晴らしい発表でした。特に西生田小の「私達の多摩美の森」は四季の観察が良くされており、感心しました。午後は写真展の表彰式後、若い女性中心のパネルセッション「麻生の自然を楽しみ、育つ」は次世代への継続にヒントとなるものでした。その他ワークショップ&交流タイムが今回新しく入りました。最後にパネル展示31団体による1分トークリレーが行われ、当会も展示パネルの前で、麻生多摩美の森の会の活動報告・紹介を致しました。

アズマネザサの今後の手入れについて
中村 浩

現状

- ① 2015年にアズマネザサの開花が確認された。
- ② 2016年6月には、その年に伸びた芽(タケノコ)にも開花が観測された。
- ③ 日当たりの良い場所では、葛、カナムグラ等の蔓草でアズマネザサが覆い尽くされた。
- ④ 蔓草で覆われた場所では、枯れたアズマネザサ(3~5年経過)が多い。しかし2015、2016年に伸びた茎は径が細く丈も短いが枯れの兆候は見られない。
- ⑤ 落葉高木で囲まれた日当たりの悪い場所では、蔓草が殆んど見られずアズマネザサが生育している。但し、背丈、茎径は日当たりが良い場所の物と比べて1/2程度以下である。

協議の結果、今後のアズマネザサの手入れは次のように決まった。

- ① 枯れたアズマネザサは全て除去する
- ② 毎年5・6月頃に蔓草・セイタカアワダチソウ等を抜き取る。
- ③ 近隣住人・トラストの会員の皆様に「アズマネザサの手入れ作業」参加の呼びかけを行い人員の確保を図る。

2017年3月19日(日)に第1回 枯れたアズマネザサの除去作業をトラストの会員・近隣の方々9名の支援を受けて作業を実施。対象エリアの約2割が完了した。

5月6日には第2回目として2名の支援を得て、蔓草(カナムグラ、ヤブガラシ、葛、アケビ等)、セイタカアワダチソウの除去を行った。対象エリアの1割程完了。2~3週間すると除去した場所にも新たに蔓草、セイタカアワダチソウが伸びてくるので、更に多くの人員を投入する必要がある。

快晴に恵まれた観望会 オーロラ天文台 小川 誠治

2月4日、川崎市麻生区健康の森で開催された、恒例の真冬の星空を楽しむつどいは快晴にも恵まれ、最盛期で約50人ものギャラリーが見えられて、ビックリするやら嬉しいやらでした。

今回は、会員が所有する2台（10.5cm屈折赤道儀、15cm反射赤道儀）の望遠鏡を使って、上弦の月、金星、カペラ、ベテルギウス、オリオン大星雲などをご覧いただきました。10.5cm屈折赤道儀には、望遠鏡とパソコンを繋ぎ、最新の技術を駆使して解説、パソコンの画面を興味深く覗くお客様が多数いらっしゃいました。

また、双眼鏡や星座早見盤を持参された方も多く、驚きました。

一方で、「カシオペア座が見えてきた」とか「北極星はどの方向に見えていますか」、「冬の大三角とはどの星ですか」「スバルはどこにありますか」「北斗七星は見えないのか」など、積極的に質問をされる方が数多くいらっしゃって、主催者としては誠に嬉しい限りです。星が大好きな幼稚園年長の女の子は、「あれが、冬の大三角」と解説してくれました。

スマホを使って月面の撮影のチャレンジされる男性もいました。

マスコミ掲載紙①1月22日朝日新聞川崎版、横浜版②地元の松本新聞店の地域コミュニティ紙1月22日付『らんピック』③1月27日読売新聞④2月1日神奈川新聞川崎版

次回は8月5日（土）開催予定です。

今後の活動予定 副会長 中谷 一郎

2017年度の最初の会報ですが第15回常総会もお蔭様で無事終了致しました。新たに新会長、新副会長も選出されました。また、総会で新しく会員になられた、近隣の方々数名がおられ嬉しい限りです。

新会長は新鮮な違った感覚で、企画、アイデアを出されると存じます。気楽に森に遊ばれられた若い親子が直ぐに参加できる様な催しになればと思います。ぜひ良いアイデアがあれば知恵をお貸し下さい。森に遊びに来て下さい。

6月 3日（土）アズマネザサの蔓除去、幹事会。

6月17日（土）麻生プレーパークを創る会。

6月18日（日）里芋畑の除草、草刈、ヤマユリ。

7月 1日（土）アズマネザサの蔓除去、幹事会。

7月16日（日）万福寺人参の播種、草刈、

里芋畑の土寄せ、ヤマユリ手入れ。

7月29日（土）八町会盆踊りの協力予定。

8月 5日（土）万福寺人参の手入れ、幹事会。

夜、オーロラ天文台 観望会。

8月20日（日）里芋の手入れ、草刈、清掃。

9月 2日（土）藤棚周辺の草取り、清掃、幹事会。

9月17日（日）のらぼう菜畑の草取り、耕作。

* この期間の作業時間は、9時～11時です。

★ 会員募集中です

一度見学にお出になって下さい。

里山の楽しさを親子で味わって下さい。

年会費 1,000 円です。

- 多摩美の森の会のホームページでは、本誌のバックナンバーもみられます。

<http://web-asao.jp/hp2/tamami/>

- ◆ 皆さんの投稿、感想をお寄せ下さい。

＜お問い合わせ・連絡先＞

井上 正樹 090-6019-3788

famcy643@vbb.ne.jp

間野 洋 044-966-7233

mano-h@jcom.home.ne.jp